



Effect of remimazolam versus sevoflurane on intraoperative hemodynamics in noncardiac surgery: a retrospective observational study using propensity score matching

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2024-03-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 桂川, 孝行 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/10271/0002000081 |

論文審査の結果の要旨

術中低血圧（Intraoperative Hypotension: IOH）は非心臓手術において一般的な合併症である。レミマゾラムは γ -アミノ酪酸受容体のベンゾジアゼピン結合部位に高い親和性を持ち、組織エステラーゼによって急速に代謝される超短時間作用型の鎮静薬である。本研究では非心臓手術における IOH の発生頻度を、レミマゾラムとセボフルランで比較した。本研究は、本学生命科学・医学系研究倫理委員会の承認を受け実施した（承認番号：23-062）。

当院で 2020 年 9 月–2023 年 3 月に施行された非心臓手術のうち、レミマゾラム（R 群）またはセボフルラン（S 群）を使用し、観血的動脈圧測定を行った成人患者を対象とした。平均動脈圧 65 mmHg 未満の時間を低血圧時間とし、累積 10 分以上を術中低血圧と定義した。年齢、性別、Body Mass Index: BMI、American Society of Anesthesiologists physical status: ASA-PS、術前合併症、内服薬、硬膜外麻酔の併用、予定または緊急手術、手術部位、予定手術時間を傾向スコアマッチングで調整した。主要評価項目は IOH 発生、副次的評価項目は累積低血圧時間、昇圧薬の投与量とした。

R 群 169 例、S 群 393 例から、傾向スコアマッチングにより 141 組のマッチドコホートが作成された。IOH 発生率に有意差は認めなかった（R 群 85.1% vs. S 群 91.5%、 $p = 0.138$ ）。累積低血圧時間（55 [18-119] vs. 83 [39-144] 分、 $p = 0.005$ ）、エフェドリン使用量（4 [0-8] vs. 12 [4-20] mg、 $p < 0.001$ ）は R 群で低かった。一方で、術中高血圧の発生頻度に有意差はなかった。以上より申請者は、レミマゾラムは、セボフルランと比較して非心臓手術において安定した血行動態を維持することができる可能性があるとした。

審査委員会では、本研究が非心臓手術におけるレミマゾラムとセボフルランの IOH 発生率を比較した初めての研究であり、臨床的意義が高いことを高く評価した。

以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 椎谷 紀彦

副査 鈴木 優子

副査 前川 裕一郎